

令和6年度後期 情報検定

<実施 令和6年12月15日（日）>

1 級

(説明時間 13:20~13:30)

(試験時間 13:30~14:30)

- ・試験問題は試験開始の合図があるまで開かないでください。
- ・解答用紙（マークシート）への必要事項の記入は、試験開始の合図と同時に行いますので、それまで伏せておいてください。
- ・試験開始の合図の後、次のページを開いてください。＜受験上の注意＞が記載されています。必ず目を通してから解答を始めてください。
- ・試験問題は、すべてマークシート方式です。正解と思われるものを1つ選び、解答欄の○をHBの黒鉛筆でぬりつぶしてください。2つ以上ぬりつぶすと、不正解になります。
- ・辞書、参考書類の使用および筆記用具の貸し借りは一切禁止です。
- ・電卓の使用が認められます。ただし、下記の機種については使用が認められません。

<使用を認めない電卓>

1. 電池式（太陽電池を含む）以外の電卓
2. 文字表示領域が複数行ある電卓（計算状態表示の一行は含まない）
3. プログラムを組み込む機能がある電卓
4. 電卓が主たる機能ではないもの
 - * パソコン（電子メール専用機等を含む）、携帯電話、スマートフォン、タブレット、電子手帳、電子メモ、電子辞書、翻訳機能付き電卓、音声応答のある電卓、電卓付き腕時計、時計型ウェアラブル端末等
5. その他試験監督者が不適切と認めるもの

＜受験上の注意＞

1. この試験問題は15ページあります。ページ数を確認してください。
乱丁等がある場合は、手をあげて試験監督者に合図してください。
※問題を読みやすくするために空白ページを設けている場合があります。
2. 解答用紙（マークシート）に、受験者氏名・受験番号を記入し、受験番号下欄の数字をぬりつぶしてください。正しく記入されていない場合は、採点されませんので十分注意してください。
3. 試験問題についての質問には、一切答えられません。自分で判断して解答してください。
4. 試験中の筆記用具の貸し借りは一切禁止します。筆記用具が破損等により使用不能となった場合は、手をあげて試験監督者に合図してください。
5. 試験を開始してから30分以内は途中退出できません。30分経過後退出する場合は、もう一度、受験番号・マーク・氏名が記載されているか確認して退出してください。なお、試験終了5分前の合図以降は退出できません。試験問題は各自お持ち帰りください。
6. 試験後の合否結果（合否通知）、および合格者への「合格証・認定証」はすべて、Web認証で行います。
 - ①情報検定（J検）Webサイト合否結果検索ページ及びモバイル合否検索サイト上で、デジタル「合否通知」、デジタル「合格証・認定証」が交付されます。
 - ②団体宛には合否結果一覧ほか、試験結果資料一式を送付します。
 - ③合否等の結果についての電話・手紙等でのお問い合わせには、一切応じられませんので、ご了承ください。

問題 1 次の情報と情報の利用に関する記述を読み、各設問に答えよ。

情報システム戦略の立案では、全体最適化の視点からビジネスプロセスを再設計し、それを実現するための情報システムを構築することが重要となる。ビジネスプロセスとは、企業活動における業務やモノの流れのことである。

情報システム戦略を立案するさい、(1)現状の姿を明確にし、(2)将来あるべき理想の姿とのギャップを認識することで、業務改善や問題解決の方針を検討するという考え方があある。現状を明確にするために、DFD、E-R図、UMLなどのモデリング手法を用いることがある。

<設問 1 > 記述中の (1) , (2) のモデルを表す適切な字句を解答群から選べ。

(1), (2) の解答群

- ア. As-Is モデル
- ウ. データモデル

- イ. To-Be モデル
- エ. プロトタイプモデル

<設問 2 > 次の E-R 図を用いて表したデータモデルに関する に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

図 1 は、J 社で扱っている商品と取引のある仕入先についてのデータモデルである。J 社で扱っている商品のうち同一商品は (3) 。また、一つの仕入先は (4) 。

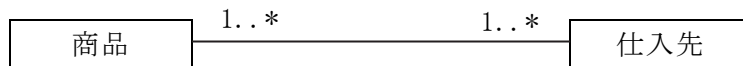


図 1 E-R 図を用いて表したデータモデル

(3) の解答群

- ア. 必ず一つの仕入先から仕入れている
- イ. すべての仕入先から仕入れている
- ウ. 仕入れ先がない場合がある
- エ. 一つ以上の複数の仕入先から仕入れている

(4) の解答群

- ア. 必ず一つの商品を納品している
- イ. 必ず複数の商品を納品している
- ウ. すべての商品を納品している
- エ. 一つ以上の商品を納品している

<設問3> 次の処理内容の記述を読み、DFD中の[]に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

[処理内容]

図2は、商品の注文を受け出庫を行う受注システムである。

顧客情報には、顧客IDや顧客氏名、住所、電話番号などがあり、顧客台帳として登録済みである。

商品情報には、商品ID、商品名、単価、在庫数、仕入先などがあり、商品台帳として登録済みである。

仕入先情報には、仕入先ID、仕入先名、連絡先電話番号などがあり、仕入先台帳として登録済みである。

顧客が注文すると商品の単価や在庫などが検索され、在庫がある場合は受注伝票と受注台帳、出庫指示書が作成され、倉庫へ出庫指示書が送られる。

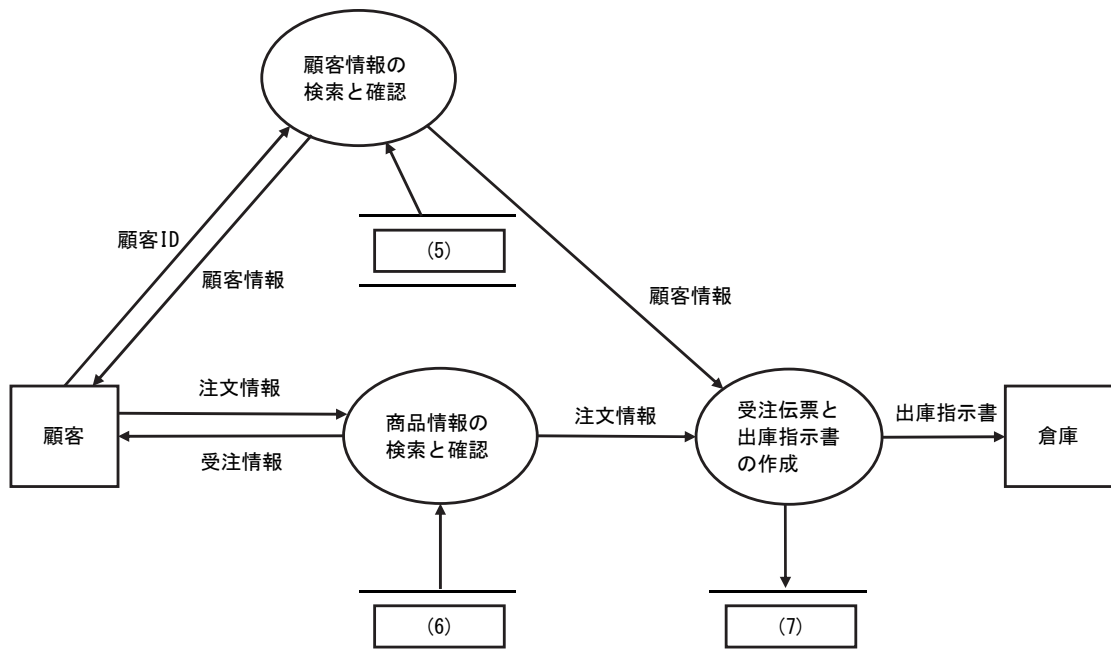


図2 受注システムのDFD

(5) ~ (7) の解答群

- ア. 顧客台帳
- イ. 仕入先台帳
- ウ. 商品台帳
- エ. 受注台帳

問題2 次のインタフェースに関する記述に最も関連の深い字句を解答群から選べ。

- (1) 赤外線を利用した短距離の無線インタフェースである。伝送距離は1m以下で、伝送する装置間に障害物があると、データ伝送が困難になる。
- (2) 電波を利用した短距離の無線インタフェースである。伝送距離は規格により10m～100m以下だが、伝送する装置間に障害物があっても、データ伝送が可能である。
- (3) 電波を用いてICタグの情報を非接触で読み書きする自動認識技術である。複数のICタグを離れた位置から一括で読み取り、瞬時に個体を識別することが可能である。通信距離は、リーダーのアンテナやICタグの性能、電波の強さによって変わるが数メートルから数十メートルとされている。このタグを商品に付けることで、バーコードの代わりとして利用することができる。また、乗車カードや電子マネーも、同様の技術を利用している。

(1)～(3)の解答群

- | | | |
|--------------|----------|-------------|
| ア. Bluetooth | イ. ESSID | ウ. IEEE1284 |
| エ. IEEE1394 | オ. IrDA | カ. RFID |

- (4) 電波非接触ICチップを使って、かざすだけで通信できる国際標準規格である。10cm程度と通信距離が短いことが特徴で、スマートフォン、交通系ICカード、クレジットカードで利用されている技術である。この技術を利用した端末同士を近づけるだけで情報を転送する「P2P」の機能があり、キャッシュレス決済にも利用されている。
- (5) コンピュータとディスプレイ装置を接続するインタフェースである。従来はコンピュータの画面情報をアナログ信号に変換して接続していたが、コンピュータの画面情報を直接デジタル信号のまま接続できる。ただし、映像信号だけを伝送し、音声信号は伝送しない。
- (6) コンピュータとディスプレイ装置を接続するインタフェースである。コンピュータの画面情報に加えて、音声や制御信号もデジタル信号のまま一本のケーブルで接続できる。

(4)～(6)の解答群

- | | | |
|--------|----------|---------|
| ア. DVI | イ. GP-IB | ウ. HDMI |
| エ. NFC | オ. SATA | カ. SCSI |

問題3 次のネットワークに関する記述を読み、各設問に答えよ。

コンピュータはネットワークでつながれ、その間で様々なデータ通信が行われている。代表的な通信のモデルの一つに OSI 基本参照モデルがある。

<設問1> 次の記述を読み、に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

OSI 基本参照モデルは図のように構成されており、各層によって役割が異なる。なお、問題の都合上、一部の名称は表示していない。

層	名称	内容
7		ファイル転送やネットワーク管理など、データの種別を制御。
6		各種データ形式の表現形式の制御・変換，コード化を行う。
5		情報更新の方法を規定。
4		データを確実に転送するための転送確認。
3	<input type="text" value="(5)"/>	ネットワーク間における，中間制御や経路の選択。
2	<input type="text" value="(3)"/>	隣接システム間での通信路の確保・制御。
1	<input type="text" value="(1)"/>	電氣的・機械的な条件を規定。

図 OSI 基本参照モデル

OSI 基本参照モデルでは層ごとに名称が定められており、それぞれ異なる役割を果たしている。第1層はと呼ばれ、ネットワーク内の機器間の通信でケーブル上を流れる信号を増幅して中継する。この時に利用される機器がである。第2層はと呼ばれ、LAN 同士を接続する中継装置であるを設置する。は MAC アドレスを識別し、フィルタリングすることができる。第3層はと呼ばれ、LAN と LAN を接続する際に用い、最短経路を選択する機能を持つを使用する。は IP アドレスをもとに経路を選択する機能を持っている。

(1), (3), (5) の解答群

- | | |
|---------------|-------------|
| ア. アプリケーション層 | イ. インターネット層 |
| ウ. セッション層 | エ. データリンク層 |
| オ. トランスポート層 | カ. ネットワーク層 |
| キ. プレゼンテーション層 | ク. 物理層 |

(2), (4), (6) の解答群

- | | |
|--------------|-----------------------|
| ア. アクセスポイント | イ. スイッチングハブ (L2 スイッチ) |
| ウ. データベースサーバ | エ. プリンタサーバ |
| オ. プロキシサーバ | カ. メールサーバ |
| キ. リピータハブ | ク. ルータ |

<設問 2> 次のコンピュータの通信に関する記述を読み、に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

コンピュータが通信を始める場合、最初に行うのが IP アドレスなどの設定すべき情報の取得である。ここでは DHCP サーバから設定情報を取得する場合を考える。コンピュータは DHCP サーバの IP アドレスを知らないため、 (7) を使用し、DHCP サーバに設定情報を要求し、いくつかの手順を経て IP アドレスを取得する。

次に通信を行う場合、宛先の IP アドレスだけでなく、機器固有の MAC アドレスが必要となる。そのため、宛先の IP アドレスをもとに、宛先の MAC アドレスを取得するため (8) を用いる。これにより MAC アドレスを取得し、通信が可能になる。

(7) の解答群

- | | |
|----------------|-------------|
| ア. パケットフィルタリング | イ. ブロードキャスト |
| ウ. マルチキャスト | エ. ユニキャスト |

(8) の解答群

- | | |
|---------|---------|
| ア. ARP | イ. FTP |
| ウ. POP3 | エ. SMTP |

問題4 次の知的財産権に関する記述を読み、各設問に答えよ。

知的財産権は、著作権と産業財産権に大別される。

著作権は人の知的な創作活動の中で、芸術や文化的な創作物に関する権利であり、著作物を創作した著作者に与えられる権利である。また、産業財産権は、発明や創造の成果を保護することを目的としている。

<設問1> 次の著作権に関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

著作権には、他人に譲渡したり、相続したりすることはできない一身専属的な□□(1)と著作物を市場に流通させることで発生する利益を保護する□□(2)があり、保護期間は著作者の死後□□(3)年である。また、実演家、音楽ソフト製作者、放送事業者など、著作者ではないが著作物に密接に関わる活動をしている、著作物の利用者に発生する権利に□□(4)があり、保護期間は、実演・発売後□□(3)年である。

(1), (2), (4) の解答群

- ア. 公表権
- イ. 氏名表示権
- ウ. 著作財産権
- エ. 著作者人格権
- オ. 著作隣接権
- カ. 同一性保持権

(3) の解答群

- ア. 10
- イ. 20
- ウ. 50
- エ. 70

<設問2> 次の産業財産権に関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

産業財産権は、特許権、実用新案権、意匠権、商標権の総称であり、概要は次のようになっている。

表 産業財産権の概要

権利名	保護される権利	保護法	保護期間
特許権	□□(5)	特許法	出願日から20年
実用新案権	□□(6)	実用新案法	出願日から10年(無審査)
意匠権	□□(7)	意匠法	設定登録日から25年
商標権	□□(8)	商標法	設定登録日から10年(更新可能)

(5) ～ (8)の解答群

- ア. 自然法則を利用した技術的思想の創作のうち高度のものを排他的に利用できる権利
- イ. 製品やサービスに関するものが、それらを識別できる名称やマークなどを独占して利用できる権利
- ウ. 発明ほどではないが、物品の形状、構造又は組み合わせに係る考案を排他的に利用できる権利
- エ. 物品の形や模様、色、またはこれらの組み合わせで視覚的に美感を起こさせるものを排他的に利用できる権利

問題5 次の情報セキュリティに関する各設問に答えよ。

コンピュータネットワークの進展により、それを利用したシステムでの情報セキュリティが重要な問題になっている。コンピュータ資源へのアクセス管理などに様々な情報セキュリティ対策が施されている。

<設問1> 次のアクセス管理に関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

ネットワーク上のサーバに対するアクセスの許可を行う場合の一般的な認証方法に、ユーザ ID とパスワードを用いる方法がある。しかし、同じパスワードを使い続けているとパスワードが漏洩し不正にアクセスされるリスクが増える。

そこで、アクセスのたびに新たなパスワードを利用するワンタイムパスワードがある。ワンタイムパスワードの代表的なものに、□(1)□/□(2)□がある。ユーザはサーバにパスワード登録しておき、ユーザがサーバに対して認証要求を出すたびに、サーバはランダムに生成された数値列(□(1)□コード)を返信する。ユーザはこの数値列とパスワードを組み合わせてハッシュ関数で演算した結果(□(2)□コード)をサーバに送る。サーバも送った数値列と登録されているユーザのパスワードからユーザと同じハッシュ関数で演算しておき、ユーザから送られた演算結果と比較して、一致すれば認証する。

(1) , (2) の解答群

- | | | |
|----------|------------|----------|
| ア. コマンド | イ. タイムスタンプ | ウ. チャレンジ |
| エ. ライセンス | オ. リクエスト | カ. レスポンス |

<設問2> 次の電子メールのセキュリティに関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

フィッシング詐欺とは、電子メールなどから受信者を偽サイトに誘導して受信者の個人情報盗み出す行為である。このような詐欺を防止するためには、電子メールの送信元ドメインの正当性を認証する必要がある。

電子メールのプロトコルである SMTP では送信元メールアドレスを自由に設定できるため、送信元を偽った「なりすましメール」を簡単に送ることができる。そこで正規のドメインから送られてきたメールかどうかを認証する方法として、IP アドレスを利用した□(3)□と電子署名を利用した□(4)□がある。

□(3)□は、自ドメインで使用される IP アドレスを列挙したものを DNS サーバに格納しておき、受信側は送信元 DNS サーバからこの情報を取得し、送られてきた IP アドレスを認証する。

□(4)□は、送られてきたメールに付与された電子署名のヘッダ情報から送信元ドメインの DNS サーバへ問い合わせ公開鍵を取得し、正規の送信サーバから送られ

たメールかどうかを認証する。この方法では送信元メールアドレスだけでなく本文の改ざんの有無も確認できる。

(3) , (4) の解答群

ア. DKIM

イ. DNS キャッシュポイズニング

ウ. PKI

エ. SPF

<設問3> 次の企業におけるセキュリティに関する記述中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

(5) は、従業員が業務に使用する IT 機器・サービスのうち、企業が把握していないものを指す。具体的には、普段プライベートで使用している SNS などの SaaS、オンラインストレージといったクラウドサービスなどを企業側の許可なく業務に使用している状態を指す。従業員が自身の業務効率をあげるために知らず知らずのうちに利用してしまうことにより、大きなトラブルに巻き込まれることもあるため、企業も利用を放置できなくなっている。この対策としては、企業内研修などで従業員にセキュリティリスクなどを理解してもらうことが有効である。

また、 (6) を利用することも一つの方法である。 (6) は、端末の機能を最小限に抑えつつ、アプリケーションの実行処理やデータ保存などをサーバ側に一任するシステムの構築方式である。

(5) , (6) の解答群

ア. インテリジェント端末

イ. グリーン IT

ウ. シャドーIT

エ. シンクライアント端末

問題6 この問題で使用する表計算ソフトの仕様を読み、各設問に答えよ。

この問題で使用する表計算ソフトの仕様は下記のとおりである。

COLUMNS 関数

指定した範囲内の列数を返す。

書式：COLUMNS(範囲)

CONCATENATE 関数

複数の文字列を結合して1つにまとめた文字列を返す。

書式：CONCATENATE(文字列1, 文字列2, …)

HOUR 関数

時刻を表すシリアル値から時の値(0～23)を返す。

書式：HOUR(シリアル値)

IF 関数

条件が真のときに真の場合、偽のときに偽の場合の計算結果や値を返す。

書式：IF(条件, 真の場合, 偽の場合)

IFERROR関数

式にエラーが無ければ式の値を、エラーがあればエラー処理の結果を返す。

書式：IFERROR(式, エラー処理)

INDEX関数

範囲の左上端から行と列をそれぞれ1, 2, …と数え、範囲に含まれる行位置と列位置で指定したセルの値を返す。

書式：INDEX(範囲, 行位置, 列位置)

MATCH関数

検査範囲から検査値が存在するセルの相対的な位置を返す。位置は1から始まる相対的な値である。検査範囲は1行または1列である。検査の型は、検査値と等しい最初の値を検索する場合は0、検査値以下の最大の値を検索する場合は1、検査値以上の最小の値を検索する場合は-1を指定する。

書式：MATCH(検査値, 検査範囲, 検査の型)

MINUTE関数

時刻を表すシリアル値から分の値(0～59)を返す。

書式：MINUTE(シリアル値)

ROUNDUP 関数

指定した桁で値を切り上げる。桁数が正の数であれば小数点以下、負の数であれば小数点以上の桁になる。例えば、1にすると小数点以下第2位以下の桁を切り上げて小数点以下第1位までを表示し、-1にすると1の位以下の桁を切り上げる。

書式：ROUNDUP(値, 桁数)

SUM 関数

指定した範囲に含まれる数値の合計値を返す。

書式：SUM(範囲)

VLOOKUP関数

検索範囲から、検索値を探し、位置で指定した列の値を返す。位置は1から始まる相対的な値であり、検索範囲中に見つけた行の中で、左から何番目の列かを示す。なお、検索方法は0の場合は完全に一致する値を探し、1の場合は検索値以下の最大値を探す。ただし、1の場合の検索範囲は昇順に並べ替えておく必要がある。

書式：VLOOKUP(検索値, 検索範囲, 位置, 検索方法)

式

=に続いて計算式や関数などを入力する。

セル番地の絶対参照

セル番地に\$を付けることで、絶対番地（絶対参照）を表す。

別シートの参照

ワークシート名に「!」を付けてセル位置を指定することにより、別のワークシートを参照できる。例:ワークシート名「集計」のセルA1を参照する場合は、「集計!A1」と記述する。

飲食店を経営しているJ店では、アルバイトの給与を計算するために表計算ソフトを利用している。

[マスタワークシートについて]

	A	B	C
1	コード	氏名	時給
2	S001	新谷 ひとみ	1,000
3	S002	赤木 瑠璃亜	1,100
4	S003	今井 真吾	1,100
5	S004	多田 啓介	1,200
6	S005	相田 恵子	1,050
7	S006	有村 聡	1,050
8	S007	桑田 はるみ	1,000
9	S008	小杉 貴嶺	1,200
10	S009	春日 努	1,100
11	S010	毛利 璃子	1,200

図1 「マスタ」ワークシート

- ・アルバイト従業員の情報が入力されている。
- ・C列の時給は、3桁のカンマ区切り表示にしている。

[勤務状況ワークシートについて]

	A	B	C	D	E	F
1	コード	日	出勤時間	退勤時間	休憩時間	検索キー
2	S001	1	15:00	21:00	1:00	S001-1
3	S001	2	15:00	20:30	0:00	S001-2
4	S001	3	9:30	15:00	0:00	S001-3
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
197	S010	26	15:00	21:00	1:00	S010-26
198	S010	29	9:30	15:30	1:00	S010-29
199	S010	30	9:30	15:00	0:00	S010-30
200	S010	31	15:00	21:00	1:00	S010-31

図2 「勤務状況」ワークシート

- ・アルバイト従業員の1日の勤務状況が、“コード”と“日”の昇順に入力されている。
1日に複数出勤することはない。今回は2行~200行まで入力した。
- ・C列~E列は時間を表すシリアル値が格納されており、“h:mm”の形式で表示している。
- ・F列の検索キーは、図3の「個人表」ワークシートで検索に使用するために用いるもので、次の式をセルF2に入力して、セルF3~F200に複写した。
=CONCATENATE(A2, "-", B2)

[個人表ワークシートについて]

	A	B	C	D	E	F	G
1	コード	S001		氏名	新谷 ひとみ		
2				時給	1,000		
3							
4	日付	出勤時間	退勤時間	休憩時間	勤務時間	給与	位置
5	1	15:00	21:00	1:00	5:00	5,000	1
6	2	15:00	20:30	0:00	5:30	5,500	2
7	3	9:30	15:00	0:00	5:30	5,500	3
8	4						
9	5	9:30	15:30	1:00	5:00	5,000	4
∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴
32	28						
33	29	15:00	21:00	1:00	5:00	5,000	21
34	30	9:30	15:00	0:00	5:30	5,500	22
35	31	9:30	14:30	0:00	5:00	5,000	23
36					合計	120,000	

図3 「個人表」ワークシート

- ・セル B1 に入力したアルバイト従業員のコードをもとに氏名や時給，勤務状況と給与を表示する。
- ・セル A5 からの日付は，月の日数にかかわらず 31 まで入力している。
- ・勤務していない日の行は空表示にする。
- ・勤務時間は，退勤時間から出勤時間と休憩時間を引いて計算する。
- ・給与は，セル E2 の時給と勤務時間を掛けたものとする。ただし，1 円未満は切り上げる。

<設問> 次の「個人表」ワークシートの作成に関する記述中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ

- ① セル E1 の氏名，およびセル E2 の時給は，セル B1 に入力したアルバイト従業員のコードをもとに「マスタ」ワークシートを検索して表示する。

セル E1 には次の式を入力する。

=IF(B1="", "",)

また，セル E2 には次の式を入力する。

=IF(B1="", "",)

(1), (2) の解答群

- ア. VLOOKUP(B1, マスタ!A2:C11, 1, 0)
- イ. VLOOKUP(B1, マスタ!A2:C11, 2, 0)
- ウ. VLOOKUP(B1, マスタ!A2:C11, 3, 0)
- エ. VLOOKUP(B1, マスタ!A2:C11, 4, 0)

② G列の位置は、セルB1のコードと該当する行の日付から「勤務状況」ワークシートを検索して該当する情報が存在する位置を表示したものである。検索が失敗した場合は空表示にする。セルG5に次の式を入力し、セルG6～G35まで複写した。

=IFERROR(, "")

(3) の解答群

- ア. MATCH(CONCATENATE(\$B1, "-", A5), 勤務状況!F\$2:F\$200, 0)
- イ. MATCH(CONCATENATE(\$B1, "-", A5), 勤務状況!F\$2:F\$200, 0)
- ウ. MATCH(CONCATENATE(B\$1, "-", A5), 勤務状況!F\$2:F\$200, 0)
- エ. MATCH(CONCATENATE(B\$1, "-", A5), 勤務状況!F\$2:F\$200, 0)

③ B列～D列の出勤時間、退勤時間、休憩時間は、G列に取り出したデータの位置をもとに「勤務状況」ワークシートから検索して表示する。セルB5に次の式を入力し、セルC5とD5、およびB6～D35まで複写した。

=IF(\$G5="", "", INDEX(, ,))

(4) の解答群

- ア. 勤務状況!\$C\$2:\$E\$200
- イ. 勤務状況!\$C2:E\$200
- ウ. 勤務状況!C\$2:E\$200
- エ. 勤務状況!C2:E200

(5) の解答群

- ア. \$G\$5
- イ. \$G5
- ウ. G\$5
- エ. G5

(6) の解答群

- ア. 4 - COLUMNS(勤務状況!\$C:\$E)
- イ. 4 - COLUMNS(勤務状況!\$C:E)
- ウ. 4 - COLUMNS(勤務状況!C:\$E)
- エ. 4 - COLUMNS(勤務状況!C:E)

④ E列の勤務時間は、出勤時間と退勤時間と休憩時間をもとに表示する。セルE5に次の式を入力し、セルE6～E35まで複写した。

=IF(G5="", "",)

(7) の解答群

- ア. B5 - C5 - D5
- イ. B5 - C5 + D5
- ウ. C5 - B5 - D5
- エ. C5 - B5 + D5

- ⑤ 各日の給与を計算するため、セル F5 に次の式を入力し、セル F6～F35 まで複写した。なお、勤務時間は分の単位を小数点以下の時間として計算する。例えば、30 分であれば 0.5 時間とする。

=IF(G5="", "",)

(8) の解答群

- ア. ROUNDUP((HOUR(E5) + MINUTE(E5) / 10) * E\$2, 0))
- イ. ROUNDUP((HOUR(E5) + MINUTE(E5) / 50) * E\$2, 0))
- ウ. ROUNDUP((HOUR(E5) + MINUTE(E5) / 60) * E\$2, 0))
- エ. ROUNDUP((HOUR(E5) + MINUTE(E5) / 100) * E\$2, 0))

- ⑥ セル F36 は、給与の合計を求めるため、次の式を入力した。
=SUM(F5:F35)

<メモ欄>

<メモ欄>

